



認定NPO法人 育て上げネット

地方公共団体による再犯防止の取組を促進するための協議会・全国会議

再犯防止に向けたアウトリーチの在り方について

- 育て上げネットの実践と示唆 -

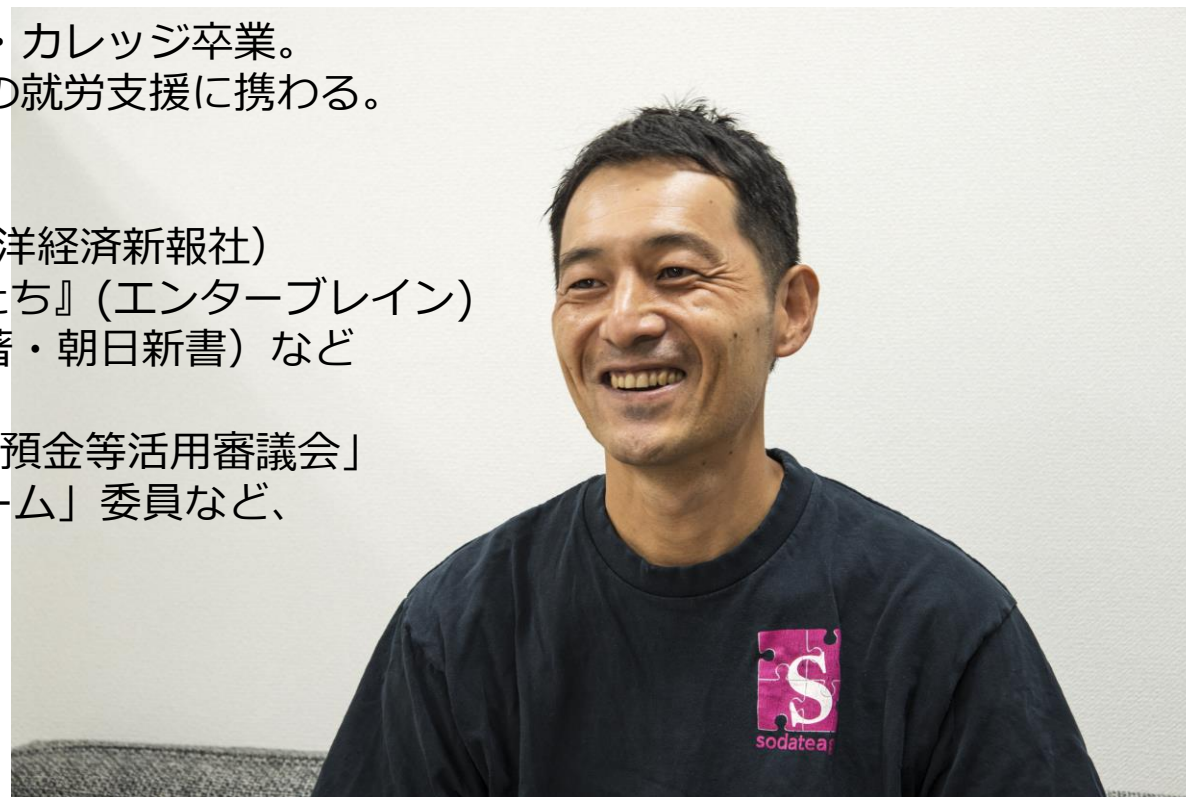
認定NPO法人育て上げネット
理事長 工藤 啓

自己紹介

工藤 啓（くどう けい）

＊認定NPO法人育て上げネット 理事長

- 1977年、東京生まれ。米ベルビュー・コミュニティー・カレッジ卒業。
2001年に任意団体「育て上げネット」を設立し、若者の就労支援に携わる。
2004年にNPO法人化し、理事長に就任。現在に至る
- 著書に『NPOで働く - 社会の課題を解決する仕事』（東洋経済新報社）
『大卒だって無職になる——“はたらく”につまずく若者たち』（エンターブレイン）
『無業社会 働くことができない若者たちの未来』（共著・朝日新書）など
- 金沢工業大学客員教授。「一億総活躍国民会議」「休眠預金等活用審議会」
「就職氷河期世代支援の推進に向けた全国プラットフォーム」委員など、
内閣府、厚生労働省、文部科学省委員歴任。
- 長男次男、双子の三男四男の父親



創業背景

さまざまな生きづらさを持つ若者と暮らしをともにしながら自立を支援する家庭に生まれる



ご結婚やご出産などで、涙ながらに退職する大人を見る



海外留学中、若者支援の先進地に視察に行く
↳ ソーシャルインベストメント
↳ 現地の先端事例と家業が類似



若者支援が、安定した「仕事」になるには社会性と事業性の両立が重要で、NPO法人の経営を志す



育て上げネット設立記

<https://note.com/sodateagenet/n/n869ea911f394>



育て上げネットの理念

めざすこと

すべての若者が**自分に合った働く**と**自分に合った生き方**を実現できること

とりくむこと

若者と社会をつなぐ

大切にすること

- ・若者と共創すること
- ・若者支援は社会投資と考えること
- ・社会性と事業性の両立を追求すること

見せる社会

若者ととともに進む社会

団体・活動紹介

若者支援事業

若者に提供する就労基礎訓練プログラム



2004年の創業以来、ひきこもりや無業のなど、働きづらさを抱える若者への就労支援を実施。行政や企業と連携しながら、年間約2,000名の若者が新規で訪れる。

現場で得られた知見をオープンに、政府や行政とのかかわりを通じて法律や政策形成にもつなげている。

教育支援事業



学習支援事業



保護者支援事業



予防的な活動として定時制や通信制などの年間約100校の高校と連携して学生を支援するとともに、生活保護や生活困窮家庭などの小中学生を年間約100名ほど、学習と生活面で支援している。

また、子育てに悩む保護者向けの事業では、日本国内外からの相談を受け、家族を入り口に若者や子どもたちと接点を作っている。

団体・活動紹介

矯正教育領域等との連携

若者支援事業

若者に提供する就労基礎訓練プログラム



2004年の創業以来、ひきこもりや無業のなど、働きづらさを抱える若者への就労支援を実施。行政や企業と連携しながら、年間約2,000名の若者が新規で訪れる。

現場で得られた知見をオープンに、政府や行政とのかかわりを通じて法律や政策形成にもつなげている。

教育支援事業



予防的な活動として定時制や通信制などの年間約100校の高校と連携して学生を支援するとともに、生活保護や生活困窮家庭などの小中学生を年間約100名ほど、学習と生活面で支援している。

また、子育てに悩む保護者向けの事業では、日本国内外からの相談を受け、家族を入り口に若者や子どもたちと接点を作っている。

学習支援事業



保護者支援事業



社会課題としての若者支援

若者支援の課題背景

取残される 若年世代

- ・ 戦後福祉の非対象
 - └ 若者は困っていない
- ・ 若さへの幻想
 - └ 若いから何とかなる
- ・ 社会的余力の喪失
 - └ 人的投資財源不足



放置された 若年世代

- ・ 働けない
 - └ 世代トップの完全失業率
- ・ 頼れない
 - └ 世代トップの孤立・孤独感
- ・ 生きられない
 - └ 世代トップの死因自死



時代変化

- ・ 社会的関心の高まり
 - └ 印象視点からデータ視点
- ・ 労働供給制約社会
 - └ 人手過剰から人手不足
- ・ 多様なセクターの協働
 - └ 社会性(公共性)と事業性(持続性)の両立

社会課題としての若者支援(量的)

若者支援の対象層 (例)

潜在層

不登校児童(小中学生)

R5年:約34万6千人

少年院収容者数

年間:約1,500名前後

子どもの貧困

7人に1人

顕在層

完全失業者割合

世代比較:高水準

若年無業者数

70万人-80万人

ひきこもり

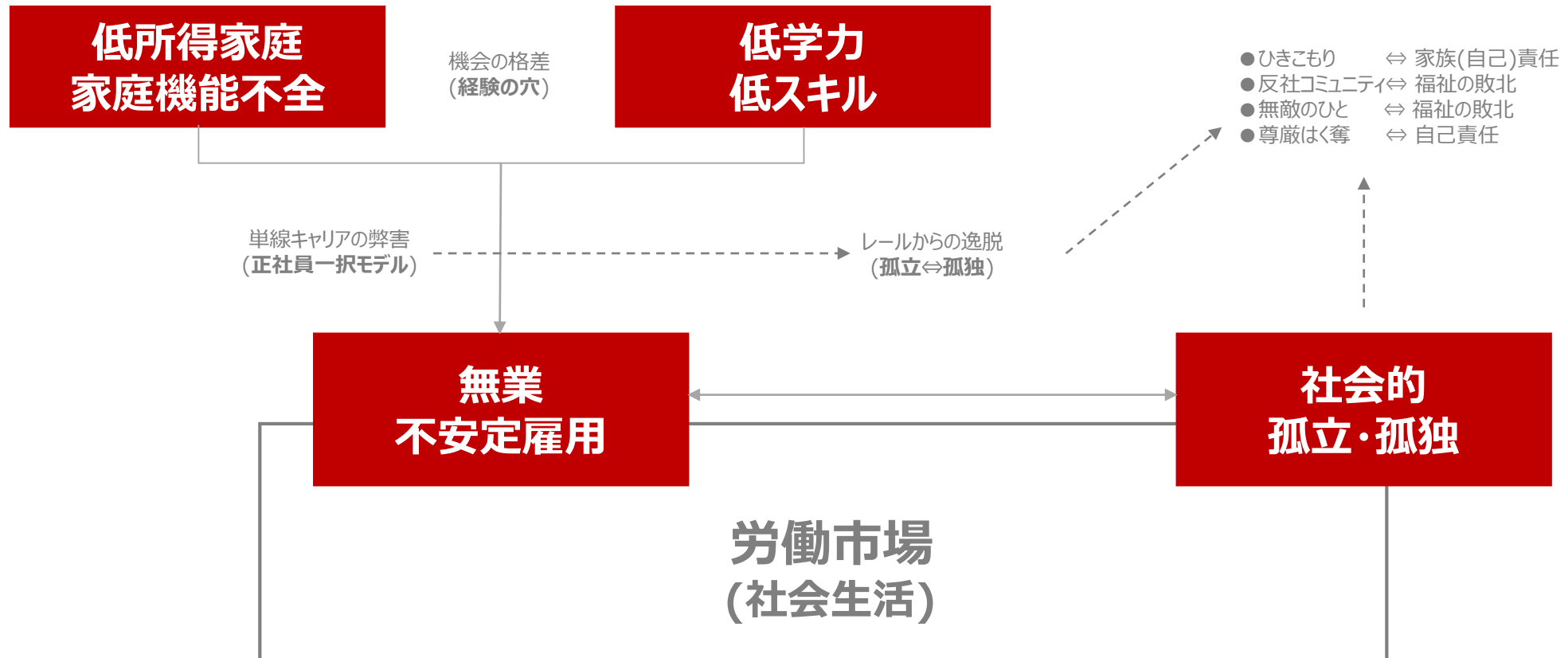
R5年:推計60万人

仮に25歳の若者が65歳まで生活保護を受けた場合と、正社員として働いた場合、その社会的便益の差分は最大1億円になるという推計があります。

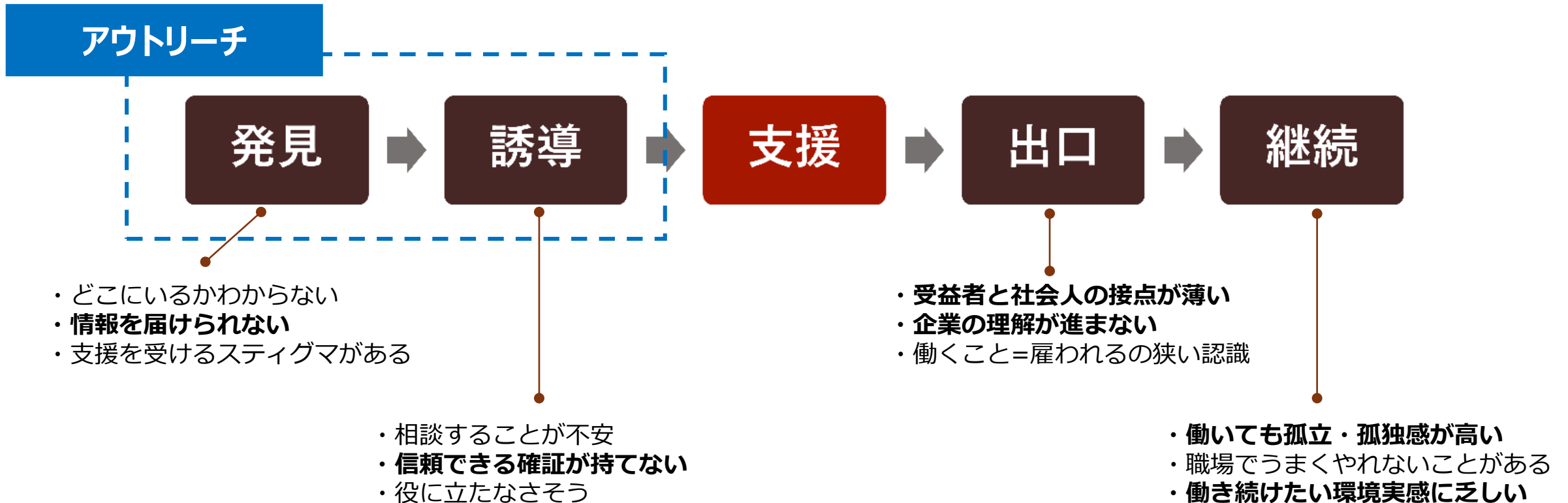


若者支援=社会投資

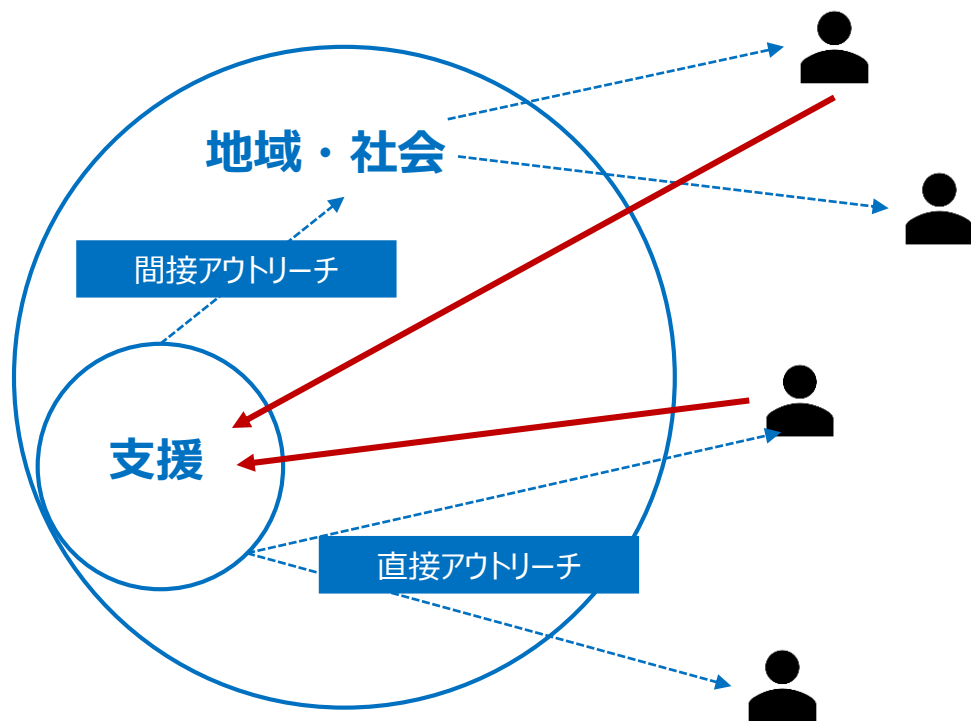
社会課題としての若者支援(質的)



支援のプロセス



アウトリーチ 「外側」 + 「届ける」



直接アウトリーチ

受益者（ターゲット）に対して、ダイレクトに情報を届ける

間接アウトリーチ

受益者（ターゲット）に対して、誰か／どこかを經由して情報を届ける

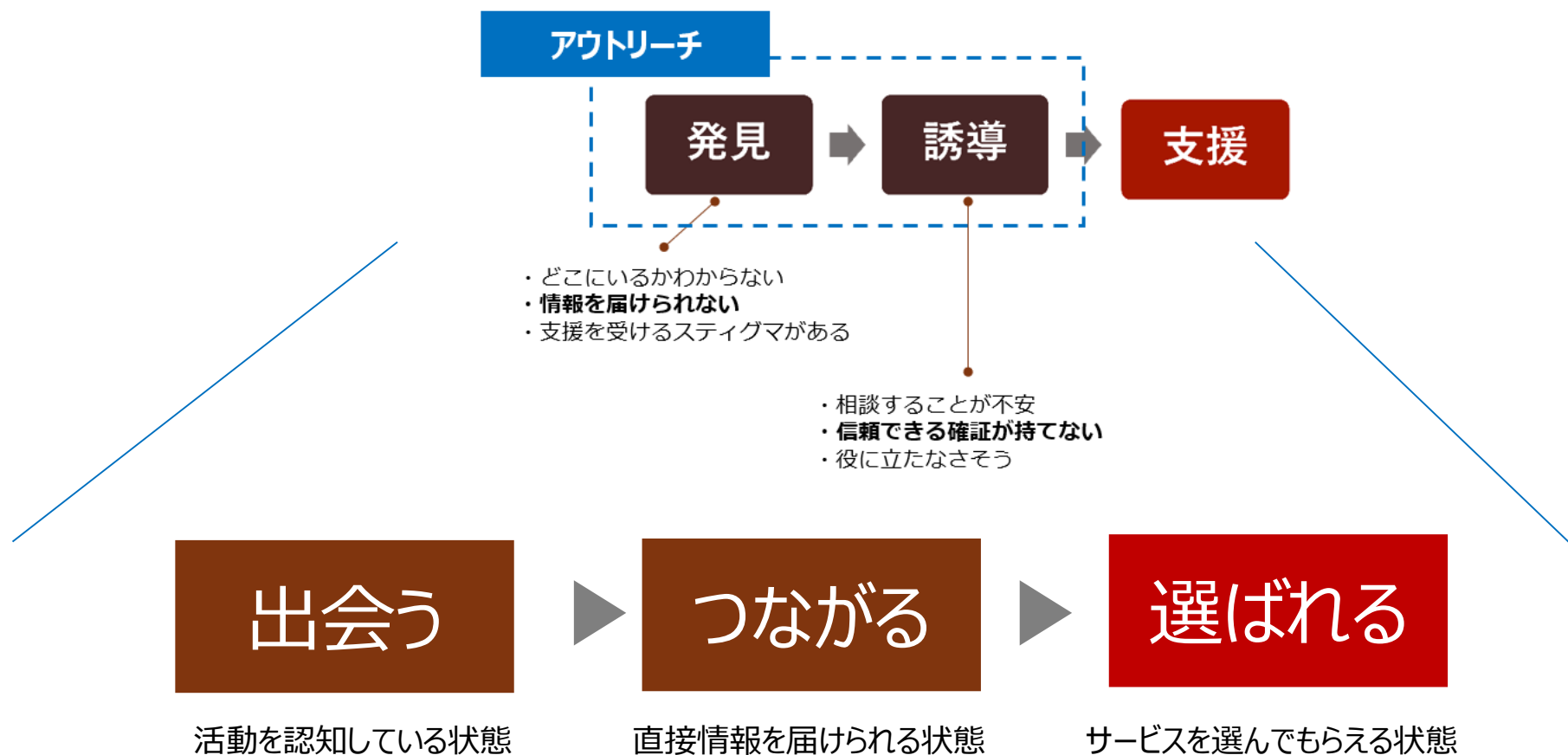
空中戦



地上戦

アウトリーチ

「出会う」 ▶ 「つながる」 ▶ 「選ばれる」



育て上げネットの取り組み

更生支援事業における視点

- 少年院の「中」と「外」をつなぐ
 - └ 直接アウトリーチ：少年がいる場所に出向く
- 地域・社会との連携
 - └ 間接アウトリーチ：少年と出会う(可能性がある) ひとたちとつながる
- 少年に「選ばれる」努力をする
 - └ アウトリーチ（出会う・つながる）から、支援（選ばれる）へ

育て上げネットの取り組み

少年院の「中」と「外」をつなぐ

院内支援



- 学習支援
多摩少年院, 愛光女子学園, 交野女子学院
- キャリア形成支援
愛光女子学園
- 金銭基礎教育
茨城農芸学院
- 就労セミナー
東京西法務少年支援センター
- 仮退院が決まった少年への事前面会、他

食糧支援



- 定期発送
毎月、食糧を送付しています
- 緊急発送
お金が不足、仕事を辞めてしまう、初任給が出るまで生活費が苦しいなどの助けがあった場合、1-3日で届くように必要量を緊急で発送しています

就労・つなぎ支援



少年院を出院した子どもたちに寄り添い
更生自立を支え続けるプロジェクト

若者支援のコンテンツを少年にも開いています

- オンライン支援
全国どこからでもスマホで相談・就労支援
- 対面支援
育て上げネットまたは近くの団体による対面での相談・就労支援をしています
- つなぎ支援
他団体や制度などとつなぐための支援をしています

育て上げネットの取り組み

地域・社会との連携

スタディツアー



- 「知る」ことから始める
年3-5回、全国の少年院や少年刑務所をめぐるスタディツアーを開催
- 法務教官の先生方ともつながる
スタディツアーのオプションとして可能な場合は、任意の懇親会を設定
- 寄付者・応援者を増やす
ほとんどの寄付者・応援者はスタディツアーの参加者から生まれています

少年院連携



- 企業やNPO、スポーツ団体と少年院の連携を作っています

バリューブックス社（本）、リクルート社（就職）
FC東京（サッカー）、キズキ社（学習）、
日本フィランソロピー協会（花育）

情報発信

出版記念ウェビナー

少年院を出院した子どもたちに
寄り添い、
更生自立を支え続ける



安部 顕
元法務教官
公認心理師

阿部 渉
若者支援者
元ニート

山寺 香
フリーライター
ノンフィクション作家

- イベント
対面・オンラインで更生支援に関するイベントを実施しています。支援者・元当事者・法務省関係者など登壇者は多様です
- (元)少年のインタビュー記事
少年院に収容経験のある方々に取材をして、過去・現在・未来についてのインタビュー記事を公開
- 書籍出版・寄稿
更生支援にかかる活動を書籍や、寄稿記事として発信しています

育て上げネットの取り組み

少年に「選ばれる」支援

夜のユースセンター(居場所)



- 毎週土曜日18:00-21:00に、若者のための夜間帯の居場所を開催
- 夕食、持ち帰れる食材
利用者には、地域の個店と連携をした夕食を出します
食糧を持ち帰れるようにしています
- アクティビティ
音楽、楽器、ゲームなど、安全な環境と安心できる
ひとたちのなかで、好きな活動が可能です

アクセシビリティ支援



交通費・通信費等の負担ができない若者を応援してください

- 交通費支援
対面の場やアクティビティに参加するための交通費の
拠出が厳しい若者には、交通費を支給しています
- PC、Wi-Fi貸与
オンラインでの支援を受ける環境が十分でない若者
には、パソコンやWi-Fi機器を貸与しています

就労支援・企業とのつながり

いっしょに若者を支えませんか？



- 就労支援
さまざまな経験機会を通じて、「働く」ことに近づいて
いけるよう、各種就労支援のサービスを提供してい
ます
- 企業とのつながり
職場見学、職業体験、インターンシップなど
企業と若者をつないでいます

来ているのは こんな若者

特徴的なタイプを紹介します

下記は一例で、来所している若者像はバラバラです



非行少年

- 元少年院生
- 出院者支援より



ひきこもり

- 昼間は出歩けない
- 保護者支援より



ヤングケアラー

- 幼い弟妹の世話で忙しい
- 高校支援より



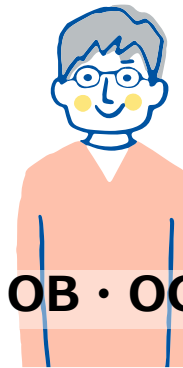
ネグレクト

- ひとり親世帯
- 母はほとんど家にいない
- 不登校支援より



困窮者

- 無職で困窮
- 自治体の生活困窮窓口より



OB・OG

- 法人支援の卒業生
- 現在は就労中

当事者の声

僕のこと、怖くないんですか？

非行少年

● 振込詐欺の受け子で少年院へ

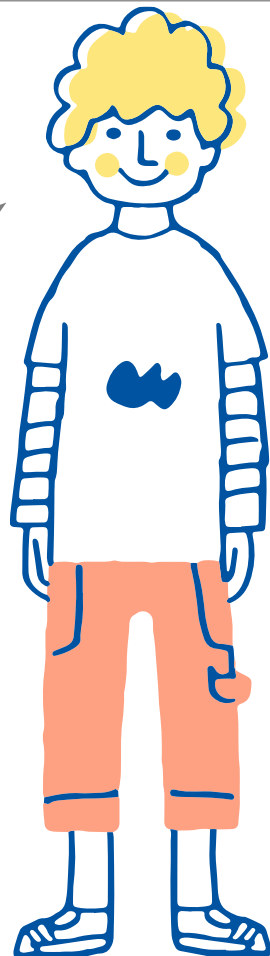
地元の先輩から脅されてイヤイヤながら振込詐欺に加担
少年院で10カ月過ごした

● 出院者支援よりつながる

当法人の行う「少年院出院者支援」に参加
悪い仲間とのつながりがなかなか切れない

● 怖い先輩のいる繁華街には行きたくない

夜、家にいたくなくて、繁華街の路上へ行くが
怖い先輩たちに出会うのもイヤだ



学校にろくに
行ってないから
ここで仲間と
ダベるのが
楽しい

- ☑ 現場に足を運んでください
 - └ 社会課題は「知ること」から始まります
 - └ 若者や子どもたちの領域に限らず、育て上げネットに限らず、ご関心のある現場に足を運んでみてください
- ☑ 周囲に伝えていただく
 - └ 困っている若者、子どもたち、そのご家族が持つ情報、選択肢が限られています
 - └ カフェ、居酒屋、SNSなどで、ぜひ情報の発信者になってください
- ☑ 余裕があればご支援ください
 - └ 困っている若者や子どもたちを支えるために寄付を通じた応援者になってください
 - └ いつか彼ら、彼女らは、社会課題の解決に取り組む担い手、それを支える応援者になります

